

クライ・ムキさんのリフォーム

子どもが自分で着られる洋服

子どもの「やりたい！」を逃さない衣服を

クライ・ムキさんは、娘さんをモンテッソーリ教育を実践する幼稚園に通わせていた経験があり、毎日着ている衣服が子どもの自立に大切な役割を果たしていることを知ったそうです。

そして、7年前には、子どもの自立を助けるポイントやアイデアをまとめた子どもの服の本「モンテッソーリ教育から学んだ 自立を助ける子ども服」を出版しています。

「『ひとりで行きたい！』という時期にいる子どもは、服を着る、脱ぐ、たたむといった動作に一生懸命取り組みます。そんな子どもの学びたいという欲求を逃さず、ちょうどいい環境を用意してあげるのが大人の役割です」とクライさん。子ども服は、子どもの成長に応じたものを着せることが大切だと言います。

子どもが手を動かして自分で着られるひと工夫を

モンテッソーリ教育では、手や指先を

よく動かすことが大切に考えられています。それは、衣服にも同じことが言えます。クライさんの著書のなかでは、年少の頃は、前、後ろどちらを前にして着てもいいデザイン洋服や、頭からすっぽりかぶれるスモック、面ファスナーでとめるエプロンが紹介されています。そして、年長くらいになったら、ボタン代わりに面ファスナーでとめるシャツや、ひも結びの練習ができるエプロンなど、子どもの成長に合わせてステップアップしていきます。

「これも、子どもにとって少しだけ難しいことを盛り込みました。そうすることで、子どもたちの集中力や注意力が養われるんです」とクライさん。

ほかにも、ボタンの大きさを大き目にしたリ、ボタンとボタンホールを同じ色にして、かけ間違えがわかるようにしたり、随所に工夫が、すると、子どもたちはスムーズにたのしんで服を着られます。

子どもも、大人も
のびのびで着られる衣服

モンテッソーリ教育から、親として

「待つこと」「ほめること」が

できることが大切だと学びました」とクライさんは言います。

娘さんには、よく、共布のスバツつきワンピースをつくってあげたそう。

「スバツをはいていれば、ちよつとぐらい激しく動いても安心だし、お行儀が悪いからと子どもを叱らずにすみませう。お絵描きや外あそびなど、洋服を汚してほしくないときは、スモックやエプロンを着せるだけで、子どもは思いっきりあそべるし、親もゆったりとした気持ちで子どもを見守れますよ」(クライさん)

既製品でもちよつと手をかければ、簡単に子どもが自分で着られるようになるんです。今回は、子どもが自分で着られ



モンテッソーリ教育では、子どもが身のまわりのことを自分でしながら、いろいろ学んでいきます。衣服の脱ぎ着も自分でできれば自信がわき、自立につながります。デザイナーのクライ・ムキさんにそんな子ども服の簡単リフォーム、教えて頂きました。

るように、工夫を凝らした3着のリフォームをして頂きました。親が手を加えてくれたことは、子どもにとっても、うれしいはずですよ。



クライ・ムキさんの著書
モンテッソーリ教育から学んだ
「自立を助ける子ども服」
文化出版局/刊 1,470円



【クライ・ムキ】
ソーイングデザイナー。子育ての体験を生かした子ども服づくりで、雑誌、テレビ、セミナーなどで活躍中。オリジナルミシンのプロデュースやアトリエソーイング教室を開催。
<http://www.kurai-muki.com>